

天国の前監督に恩返しを！全国制覇へ18人一丸

大阪人間科学大学女子バスケットボール部

マンスリーキャンパススポーツ第11回は、昨年の関西女子学生バスケットボール選手権を連覇するなど、西日本女王の座を奪還した大阪人間科学大学女子バスケットボール部。昨年のインカレでも前年の5位から3位に食い込む健闘ぶり。2014年に急逝した長渡俊一前監督からバトンを受けた妻・由子監督、就任2年目での大躍進だった。初の全国制覇に向けて、畠中春香主将（はたけなか・はるか、3年）に意気込みを聞いた。

畠中春香主将にインタビュー



畠中春香主将

一昨年3月、突然の悲報にぼろぜんとなった。長年にわたって指導を仰いだ長渡俊一監督の死（享年66）。「自分たちだけで大丈夫か不安だった」と畠中主将は当時を振り返る。しかし、いつまでも下を向いてはいなかった。代わりに指揮を執った妻・由子監督のもと練習に没頭。上級生が中心となってチームを支え、新しいことに挑戦し、変革をもたらした。結果はすぐに表れた。本年度は関西女子学生選手権を連覇。続く西日本学生選手権も優勝。インカレ（全日本学生選手権）では3位と充実。目標とする日本一にあと1歩のところまでこぎつけた。

チームの原動力は「自主性」と畠中主将。新監督就任後は、試合のビデオを見て研究し、選手自ら練習メニューを構成。平均身長が全国レベルでは低いことに着目し、防御から速い攻撃に展開する練習を積み重ねた。選手1人

ひとりが明確な目標を持って取り組んだからこそその成果。しかし、彼女たちの最大目標は「全国制覇」。天国から見守っているはずの俊一前監督に恩返しをしたい。勲章に向けて、速攻を軸としたプレーを徹底。現在は新チームへの移行期間ではあるが、スピード強化のため脚力&体力、そしてシュートの精度、プレーの正確さを追求する。必ず栄冠を勝ち取ってみせる！



来季こそ悲願の全国制覇を、と意気込む大阪人間科学大学女子バスケットボール部

◆大阪人間科学大学 2001年創立。母体は、1931年創立の薫英学園。4月から新たに理学療法士受験資格とJATAC認定アスレチックトレーナー資格のダブル取得が可能な「理学療法学科」を設置。「スポーツリハビリ」に強い理学療法士の養成を目指す。女子バスケットボール部の前身は1977年創部の大阪薫英女子短期大学。部員数18人。リオ五輪の女子バスケット日本代表候補にOGの栗原、近藤の2人が選出。